

「県内市町村（青森市、十和田市）における平成 27 年度健康および食振興のための地域活動」

職・氏名： 教授 藤田修三

所属学科： 栄養学科

I. 事業の背景

これまで県内市町村において、健康増進、食生活にかかる事業およびボランティア活動を継続して行ってきた。活動の成果として、住民がリピーターとして事業参加して頂けるほどの実績があげられるようになってきた。住民が進んで参加希望する事業は、大学からの支援を得ながら、今後とも継続していくことが、地域に開かれた大学としての貢献の役割を果たす。

II. 目的

事業の背景で述べた活動、および新規参加の活動を含め、大学の市民との交流、地域全体の健康増進への貢献、また学生のヒューマンケアの育成、地域交流のスキルアップを目的とする。

III. 参加者

大学側参加者 教員藤田修三、地域連携課職員、学生

事業への参加者 地域住民及び観光客

IV. 事業の内容

申請段階では、3つの事業としており、①青森市保健福祉部主催の「たばこと健康フェア 2015」での大学展示提供活動、②青森市「あおもり健康づくりリーダー育成事業」育成者と学生との連携活動、③十和田市で開催される「B1 グランプリ in 十和田」の会場運営支援活動を事業項目としていた。しかし、①②について、主催者である青森市の健康推進事業が、短命市返上の観点から、再編成され、両者を一本化し、「あおもり市民健康アップフォーラム」という形態をとり、市長自らが出席してコメンテーターを行う大規模な事業となった。③については、予定通りに実行された。

1. あおもり市民健康アップフォーラム

平成 27 年 11 月 13 日（金）、リンクステーションホール青森で開催された。事業目的は、地域、学校、企業等が取り組んできた健康づくりの実践を、本フォーラムで報告するとともに、参加市民と分かち合い、市民総ぐるみの健康づくり運動をさらに広げ、市民の健康教養の向上を図ることであり、実施主体は、青森市および元気都市あおもり健康アップ推進会議が執り行った。

内容は、ステージで開催する健康フォーラム、とホワイエおよびステージ横の広場で催された、市民総ぐるみの健康づくり運動紹介コーナー、簡単健康チェック・情報展示コーナーの、ふたつの事業が同時進行した。

まず、ステージでは佃保育園、合浦保育園の園児による野菜摂取活動をすすめるミュージカルで事業はオープニングし、「私たちの健康づくり活動発表会」が行われた。あおもり健康づくりサポーター、リーダーによる、健康劇、寸劇、企業・事業所からの取り組み報告、NPO ファミカフェによる子ども達への取り組み、地域の各種団体（JA 青森、チュウボー男子会）等の発表があった。それぞれに、市長および本報告書記載の教員からコメントを行った。

一方、ホワイエおよびステージ横ロビーについて、市民総ぐるみの健康づくり運動紹介コーナーでは、元気都市あおもり健康アップフォーラム推進会議、健康なまちづくり交流会、青森市食

生活改善推進委員会、幼稚園児の健康絵画展等が展示された。簡単健康チェック・情報展示コーナーでは、血糖値測定（日本糖尿病協会）、減塩・栄養相談（青森県栄養士会）、乳がん検診推進コーナー（あおり男女共同参画をすすめる会）、血管老化度測定（青森県立保健大学）、灰年齢測定（青森市医師会）、体脂肪測定（あおり健康づくりサポーター、リーダー）が企画された。

あおり市民健康アップフォーラム参加者は、主催者側報告では636名の市民が参加した。本事業で申請した活動の内訳は、ステージでの活動報告および寸劇のコメンテーターを参加教員が担当し、一方、ステージ横ロビーでの青森県立保健大学展示の血管老化度測定を、本学地域連携推進課職員、学生アルバイトの協力を得て、252名と多くの市民を対象に測定を実施することができた。



2. 十和田市で開催の「B1 グランプリ in 十和田」の会場運営支援活動

平成27年10月2日(土)～3日(日)に開催の「B1 グランプリ in 十和田」に、本学学生サークルが参加し、全国大会の円滑な運営に協力した。本学学生サークルは、「津ギョウザ小学校（三重県津市）」のブースを担当し、全国各地から参加が見込まれる一大イベントを支援した。

コンテストは参加者が食べた際に使用する箸の投票数（重量）で競うことになるが、投票の結果、2015年度は、

- ・ゴールドグランプリ 熱血！！勝浦タンタンメン船団（千葉県勝浦市）
- ・シルバークランプリ 対馬とんちゃん部隊（長崎県対馬市）
- ・ブロンズグランプリ 津ぎょうざ小学校（三重県津市）
- ・第4位 今治焼豚玉子飯世界普及委員会（愛媛県今治市）
- ・第5位 田川ホルモン喰楽歩（福岡県田川市）
- ・第6位 あかし玉子焼ひろめ隊（兵庫県明石市）
- ・第7位 黒石つゆやきそばHAPPY麺恋`ジャー（青森県黒石市）
- ・第8位 出雲ぜんざい学会（島根県出雲市）
- ・第9位 三崎まぐろラーメンズ（神奈川県三浦市）
- ・第10位 Do it! 松阪鶏焼き肉隊（三重県松阪市）

という結果で、学生が支援した「津ギョウザ小学校」は第3位と大健闘した。

会期2日間の合計の来場者数は、主催者側の発表では、334,000人であった。



V. 事業の効果

1. あおもり市民健康アップフォーラムについて

あおもり市民健康アップフォーラムへの市民参加者は636名であり、そのうちの251名が血管老化度測定を受け、参加者全体の40%に相当するほどに好評であった。血管老化度測定は、市民の健康づくりバロメータとして活かすことができ、保健大学らしい地域貢献ができたと考えられる。ステージでの健康づくりサポーター及びリーダーの成果報告は、これまで申請した教員の健康づくり人材育成部会としての活動の成果であり、健康都市を宣言する青森市の市民啓発に協力できていると考える。

2. 十和田市で開催の「B1 グランプリ in 十和田」の会場運営支援活動について

参加者が33万人を超え、県内イベントでは大きい方で、参加学生は全国から集まる人々とのコミュニケーションの中で、青森県立保健大学のこと、ボランティア活動を行う大学サークル(A-Knot)のことをアピールした。結果として、学生の協力は「つぎようざ小学校」がブロンズグランプリ獲得を果たすことに貢献し、また参加学生は栄養学科学生で、つぎようざは地元の学校給食の定番メニューであり、交流を通して食と健康づくりに対する意識が高まり、そのことが食育、栄養教諭およびライフステージ栄養学の活きた材料になったと思われる。

主催の十和田市では、ボランティア参加者へのお礼を以下のサイトに掲載している。

http://b-1towada.com/category/151005_114804